

一般社団法人 日本口腔ケア学会 第10回 東海口腔ケアフォーラム

「認知症と口腔ケア」

開催日： 2024年3月10日（日）

会場： 愛知学院大学楠元キャンパス110周年記念講堂
〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100

名誉大会長： 木本 統 [愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座]
大会長： 竹内一夫 [愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座]
実行委員長： 瀧井泉美 [愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座]
準備委員長： 黒瀬基尋 [医療法人さくら会理事長]

〈大会事務局〉

〒464-865 名古屋市千種区末盛通2-11

愛知学院大学歯学部 高齢者・在宅歯科医療学講座 内

Tel & Fax : 052-759-2154

E-mail : care@dpc.agu.ac.jp

一般社団法人 日本口腔ケア学会
第10回 東海口腔ケアフォーラム

プログラム・抄録集

- 目次 -

1. 大会長挨拶	1
2. 大会概要	2
3. 日 程	3
4. 会場案内	4
5. 発表者と座長の先生方へ	6
6. 抄 録	7
- 基調講演 I	8
- 基調講演 II	10
- 教育講演 I	12
- 教育講演 II	14
- 教育講演 III	16
7. 広 告	18

1. 大会長挨拶



第10回東海口腔ケアフォーラム
大会長 竹内 一夫
(愛知学院大学歯学部 高齢者・在宅歯科医療学講)

この度、第10回東海口腔ケアフォーラムを2024年3月10日(日)に愛知学院大学楠本キャンパス110周年記念講堂で開催させて頂くこととなりました。ご講演をいただき先生方、ならびにフォーラムに参加いただく皆様に御礼を申し上げます。さて、今回のフォーラムのテーマは「認知症と口腔ケア」とさせていただきます。認知症の進行に伴い口腔ケアが困難になることはよく経験しますが、それぞれの現場でお困りのことがあるかと思えます。そこで、認知症患者の口腔ケアの臨床あるいは基礎科学に造詣の深い様々な職種の先生方にご講演をいただくこととしました。

基調講演Ⅰでは老年医学がご専門の葛谷雅文先生から「認知症患者の栄養管理から見た口腔ケア」というテーマでお話をいただきます。基調講演Ⅱでは老年歯科医学がご専門の吉田光由先生から「認知症患者の口腔健康管理」と題してお話をいただきます。教育講演Ⅰでは、看護学がご専門の百瀬由美子先生から「介護老人福祉施設における看護・介護スタッフによる認知症高齢者の口腔セルフケア支援の試み」と題して介護現場における口腔ケアの質向上の活動と成果についてお話をいただきます。教育講演Ⅱでは基礎科学のお立場から松下健二先生による「歯周病菌のコントロールによる認知症予防の可能性」と題して、歯周病菌と認知症の発症や病態形成との関わりについてお話をいただきます。教育講演Ⅲでは言語聴覚士の牧野日和先生から「口を開けない認知症高齢者への対応」というテーマで、「牧野式食の構造化モデル」をご紹介いただき、認知症高齢者の尊厳を守りつつ口腔ケアを実践する方法についてお話をいただきます。

講師の先生方の知識、臨床、研究成果を通して、口腔ケアにおける認知症患者へのアプローチについて深く学び、今後の臨床や研究に役立てることができればと考えています。充実した学びの1日となるようにお祈り申し上げます。

2. 大会概要

会名 : 一般社団法人日本口腔ケア学会 第10回東海口腔ケアフォーラム

会期 : 令和6年 3月 10日 (日)

会場 : 愛知学院大学楠元キャンパス 110周年記念講堂

住所 : 〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100

参加費 :

・ 医師・歯科医師	3,000円
・ 看護師・保健師・助産師	2,000円
・ 歯科衛生士	2,000円
・ 言語聴覚士	2,000円
・ 作業療法士	2,000円
・ 介護福祉士	2,000円
・ その他コメディカル, 福祉職	2,000円
・ 大学院生	2,000円
・ 学生	無料

大会長 : 竹内一夫 (愛知学院大学歯学部 高齢者・在宅歯科医療学講座)

実行委員長 : 瀧井泉美 (愛知学院大学歯学部 高齢者・在宅歯科医療学講座)

準備委員長 : 黒瀬基尋 (医療法人さくら会 理事長)

事務局 : 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通 2-11

愛知学院大学歯学部 高齢者・在宅歯科医療学講座

TEL/FAX : 052-759-2154

3. 日 程

3月10日(日)

9:00 ~ 受付開始

9:25 ~ 開会式

9:30 ~ 10:40 基調講演Ⅰ 葛谷雅文

(名鉄病院院長)

〈座長: 夏目長門〉

10:45 ~ 11:55 基調講演Ⅱ 吉田光由

(藤田医科大学医学部 歯科口腔外科学講座)

〈座長: 木本 統〉

12:00 ~ 13:30 休 憩

13:30 ~ 14:40 教育講演Ⅰ 百瀬由美子

(日本赤十字豊田看護大学 在宅看護学)

〈座長: 竹内一夫〉

14:45 ~ 15:55 教育講演Ⅱ 松下健二

(愛知県 国立長寿医療研究センター)

〈座長: 三谷章雄〉

16:00 ~ 17:10 教育講演Ⅲ 牧野日和

(愛知学院大学 健康科学部)

〈座長: 杉本太造〉

17:10 ~ 17:20 来年度予告ビデオレター

17:20 ~ 閉会式 第11回東海口腔ケアフォーラム 大会長
医療法人さくら会 理事長 黒瀬基尋 先生

認定資格試験のご案内

実施級

1級・2級・3級・4級・5級・薬剤師4・5級・口腔ケアアンバサダー

●筆記試験

2級・3級・4級・5級・薬剤師4・5級・口腔ケアアンバサダー
同時刻実施

10:00	入室
10:00－10:15	説明・必要事項の記入
10:15－11:05	筆記試験
11:05－11:20	連絡事項

※1級および2級の口頭試問（面接試験）は別途ご案内します

●試験会場

愛知学院大学楠元キャンパス
（愛知県名古屋市千種区楠元町1-100）

4. 会場案内

愛知学院大学 楠元キャンパス 110 周年記念講堂へのアクセス方法

■ 地下鉄東山線，藤が丘行き



地下鉄東山線・名城線「本山」駅下車、1番出入口より徒歩約5分。

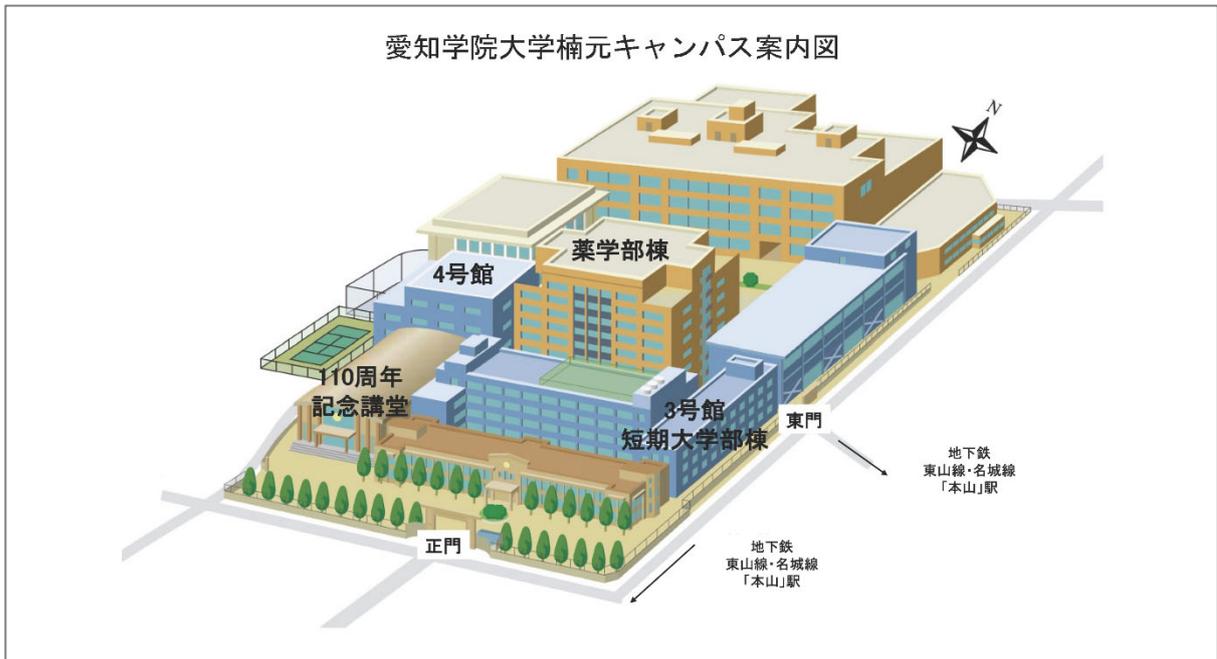
- 東名高速道路 ・ 名古屋 IC より約 20～30 分
- 名古屋高速 ・ 2号東山線 四谷出口より 5分



駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関にてお起こしく
ださいますようお願い致します。

■ 会場

学会会場 : 110周年記念講堂



5. 発表者と座長の先生方へ

■ 利益造反

COI 状態について発表スライドの最初に開示をお願い致します。

■ 座長の先生方へ

次座長は10分前までに「次座長席」へお座りください。

6. 抄 録

基調講演 I 座長 夏目長門先生（愛知学院大学歯学部）

認知症患者の栄養管理から見た口腔ケア

名鉄病院院長 葛谷雅文先生



我が国における認知症患者の数は高齢者人口の増加に伴い増加し続け、現在約 650～700 万人程度と推測されている。さらには 85 歳以上の高齢者の認知症有病率は 50% 以上という、まさに認知症は長生き病と言える病となっている。

認知症、特に最も有病率が高いアルツハイマー型認知症は病歴が 10 年前後という長いスパンの疾病であり、経過を追って徐々に認知機能障害が進行する。認知症患者はその進行に沿って栄養状態の悪化が観察される。その要因としては主に摂食量自体の減少が考えられている。まずは、抗認知症薬などの薬の影響も加味し食欲自体の低下、さらには進行に伴い食事自体の認知の低下や失行などにより食事摂食量自体が低下する。また口腔機能の低下により咀嚼機能や嚥下機能の低下が起こりやすく、それによっても食事内容の変化（固いものを避ける行為）や摂取が低下したり困難になったりしやすい。嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を繰り返すことにより、食事摂取量がさらに低下するのみならず代謝性ストレスが増加し、栄養状態の悪化が起こりやすくなる。栄養状態の悪化はサルコペニアや骨粗鬆症を引き起こし転倒骨折のリスクになり、免疫力を低下させ、感染症や褥瘡を併発しやすくなり、認知症患者の生命予後に大きな影響を与える。

口腔機能や口腔環境はこの一連のプロセスにおいて、大きな影響を及ぼす。認知症患者では進行に伴い中核症状である認知機能の低下が起こり、自らが口腔管理をすること自体が困難となる。特に歯磨きなどによる口腔衛生を保てなくなるばかりか、介護者による口腔ケアや歯科医療従事者による齲歯、歯周病などに対する診療行為自体を受け入れないことにより、口腔機能は著しく悪化する。また口腔衛生が保てないために、誤嚥性肺炎のリスクも上昇する。もともと保有し使用していた義歯のメンテナンスもできなくなり、使用自体を止めてしまい咀嚼行為にも支障が起こり、これも栄養不良の要因になる。

認知症患者への適切な口腔ケアは認知症自体の進行への影響のみならず、栄養状態の悪化を予防し、誤嚥性肺炎のリスクを低下させ、認知症患者の生命予後のみならず QOL にも大きく貢献する。

略 歴

昭和58年 3月 大阪医科大学 卒業
平成 元年 3月 名古屋大学大学院医学研究科（内科系老年医学）卒業
平成 3年 4月 米国国立老化研究所 研究員
平成 8年 5月 名古屋大学医学部附属病院（老年科） 助手
平成10年 4月 同上 講師
平成19年 4月 名古屋大学大学院医学系研究科老年科学分野 准教授
平成23年 4月 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学分野 教授
平成25年 4月 名古屋大学医学部附属病院地域医療センター
（現地域連携・患者相談センター）センター長（兼務）
平成25年11月 名古屋大学予防早期医療創成センター 教授（兼務）
平成26年 4月 名古屋大学未来社会創造機構 教授（兼務）
平成27年 4月 名古屋大学医学部附属病院栄養管理部長（兼務）
平成28年 4月 名古屋大学未来社会創造機構 機構長補佐（兼務）
令和 4年 3年 名古屋大学を定年退職
令和 4年 4月 名古屋鉄道健康保険組合 名鉄病院 院長

専門分野：老年医学、栄養・代謝、サルコペニア、動脈硬化、認知症、地域在宅医療

社会活動

所属学会：日本内科学会（認定医、指導医）、日本老年医学会（名誉会員、専門医、指導医）、日本老年学会（理事）、日本動脈硬化学会（名誉会員、専門医）、日本臨床栄養学会（理事、指導医）、日本サルコペニア・フレイル学会（名誉会員）、日本未病システム学会（理事）、日本認知症学会

賞 罰：かなえ研究奨励賞（平成7年）

日本老年医学会賞（ノバルティス賞）受賞（平成7年）

日本老年医学会優秀論文賞（第14回、平成19年）

日本老年医学会優秀論文賞（第19回、平成23年）

Best Article Award 2012, Geriatrics Gerontology International

公益財団法人 三井住友海上福祉財団 設立40周年記念特別賞（平成27年11月）

基調講演Ⅱ 座長 木本 統先生（愛知学院大学歯学部）

認知症患者の口腔健康管理

藤田医科大学医学部歯科口腔外科学講座

吉田光由先生



歯の喪失や義歯使用の有無が認知症の発症に関係していることが言われている。神奈川歯科大学の山本らの研究によると、65歳以上の健常高齢者4,425名を対象に歯数や義歯の使用状況を調査後、認知症を伴う要介護認定について4年間の追跡調査を行い、その結果、年齢や所得、生活習慣などの影響を統計学的に排除しても、歯がほとんどなく義歯未使用の者は20歯以上の者と比較して、1.85倍（95%信頼区間1.04–3.31）認知症発症リスクが高かったことを報告している。さらに、歯がほとんどなくても義歯を使用している者の認知症発症リスクは1.09（95%信頼区間0.73–1.64）と20歯以上の者との間に有意差はなく、義歯を使用することで、認知症の発症リスクを約4割抑制できる可能性も示している。認知機能の低下とともに、自身の歯のケアや歯科治療の受容も困難となり、残した多くの歯がトラブルの原因となる可能性が高い状況にあり、認知症患者の口腔健康管理では、どのような口腔内が患者にとって有益なのかを考える必要がある。すなわち、8020（残存歯）といった健康目標にとられるのではなく、8028（機能歯）へのギアチェンジが求められる。認知症の進行とともに、義歯の取り扱いも困難となっていくことが言われている一方で、重度の認知症患者でも慣れ親しんだ義歯は使用できていることが多い。我々は、認知症の診断によく利用されている長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）が10点未満、Mini Mental Scale Examination（MMSE）が14点未満といった重度認知症患者では、新しい義歯に順応することが困難となることを報告している。具体的に言うと、今日の日付や現在の場所といった見当識がなくなって、口を開けたり閉めたりといった簡単な言葉の指示に従うことができなくなった認知症患者では、義歯を新製してもそれを使うことはなかなか難しいということになる。アルツハイマー病患者がこのような高度な認知症となるまでには10～15年かかると言われていることから、このような状態に至るまでの軽度から中等度のうちに新しい義歯を作って、その慣れた親しんだ義歯を生涯使い続けてもらうための対応を図っていくといった取り組みが、認知症患者に対する歯科医療では求められる。このような話が本講演で出来ればと考えている。

略 歴

- 1991年 広島大学歯学部 卒業
- 1996年 広島大学歯学部歯科補綴学第一講座 助手
- 1998年 博士（歯学）取得
- 2003年 フロリダ大学健康科学部コミュニケーション障害学講座 短期留学
- 2004年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科先端歯科補綴学 講師（学内）
- 2008年 広島市リハビリテーション病院 医療科部長
- 2016年 広島大学大学院医歯薬保健学研究科先端歯科補綴学 准教授
- 2021年 藤田医科大学医学部歯科口腔外科学講座 教授

教育講演Ⅰ 座長：竹内一夫先生（愛知学院大学歯学部）

介護老人福祉施設における看護・ 介護スタッフによる認知症高齢者の 口腔セルフケア支援の試み



日本赤十字豊田看護大学 在宅看護学 百瀬由美子先生

介護保険制度がスタートして20年以上が経過し、高齢化の進展は続き、それに伴い要介護高齢者数、認知症高齢者数も増加している。このような状況の変化に応じて、介護予防の視点でサービス提供や介護報酬の見直し、改正がなされてきた。要介護度が高く、認知症を有する人が多く入所している老人福祉施設（特別養護老人ホーム、以下特養）においても、口腔機能の維持向上に積極的に取り組む施設には、介護報酬の加算による評価がなされてきた。一方で、介護報酬の加算要件を満たすことや実践面において多くの困難があることから、特養における口腔ケアの質向上の課題が指摘されている。特に、特養のスタッフは、口腔ケアの実践において、口腔内の観察や口腔ケアの知識・技術に関する教育ニーズを有しているものの、個人や施設側の両側面の要因により研修等の教育の機会が限られ、口腔ケアの実践に必要な知識不足から不安や困難感を抱いていることが報告されている。

そこで本講演では、特養で起きている口腔ケアの状況を理解し、特に看護・介護スタッフが主に行う器質的口腔ケアに焦点を当て、困難状況や課題を共有し、課題解決に向けた対策を、現場のスタッフと共に探り、課題の改善に向けてスタッフのケア行為や居住ユニット全体のケア体制に変化をもたらすことを目指してアクションリサーチを行った事例を紹介する。具体的には、認知症高齢者の口腔ケアの自立を重視しつつ、口腔ケアの質を高めるにはどうしたらよいか、というスタッフが認識した課題に対して、「仕上げ磨きの必要性の可視化」、「仕上げ磨きをする体制の整備」を計画・行動したことにより、高齢者自身による口腔ケア後に8割以上あったプラークコントロールレコードが、スタッフの仕上げ磨きを実施するようにしたことで、4～5割に改善した。認知症高齢者に対する器質的口腔ケアの支援方法として十分な質が保証されるまでには至っていないものの、介護予防の観点からも特養における看護・介護スタッフによる認知症高齢者への口腔セルフケアの支援方法を検討するうえでの参考にしていただければと考える。

略 歴

現職：日本赤十字豊田看護大学 研究科長・特任教授

愛知県立看護短期大学を卒業後、愛知県がんセンター病院に看護師として勤務後、長野県松本市に開設した長野県がん検診・救命救急センターに異動。その後、松本市が採択された厚生省老人訪問看護モデル事業に参加し訪問看護師として活動、モデル事業終了後、信州大学医学部保健学科の講師、准教授、教授を経て、愛知県立大学看護学部教授、学部長、研究科長、副学長を経験し、退官後、現職。

研究活動は、主に認知症高齢者に対する看護ケア教育プログラムの開発や認知症対応型グループホームを拠点とした災害時要援護者防災・減災対策モデルの構築に取り組んでいます。

現在は、老年看護学会理事、私立看護系大学協会理事などの大学以外での活動もしています。

歯周病菌のコントロールによる

認知症予防の可能性



国立長寿医療研究センター研究所・口腔疾患研究部
大垣女子短期大学歯科衛生学科

松下健二先生

認知症は世界で最も患者数の多い神経疾患であり、世界保健機関（WHO）により世界的な公衆衛生対策上の優先課題とされている。認知症の予防・治療法については治療薬をはじめ様々な視点から研究・開発がなされている。最近、エーザイ株式会社とバイオジェンが共同で開発したアルツハイマー病（AD）治療薬レカネバブが注目されているが、その効果は限定的であり、十分に有効な予防・治療法は確立されていないのが現状である。認知症の危険因子や、認知症の発症・進行を抑制する因子を特定し、その情報を有効に活用できれば、認知症の予防や健康寿命の延伸が可能になる可能性がある。

AD は、進行性の神経変性を主徴とする疾患であり、認知症患者の 6～8 割を占めている。AD の発症には栄養状態やメタボリックシンドロームといった、生活習慣に関連した様々な危険因子が関与すると考えられている。歯周病は、口腔清掃習慣や食習慣が関連する生活習慣病の一種であり、糖尿病や虚血性心疾患などの生活習慣病との関連性が明らかにされている。近年、この歯周病と認知機能および認知症との関連が明らかにされつつある。我々は、国立長寿医療研究センター物忘れ外来の患者を調査した結果、認知機能低下と口腔清掃不良や歯周病の悪化との間に相関関係があることを明らかとなった（J Alzheimers Dis 96(1):369-380, 2023）。また、歯周病関連細菌と認知機能や認知症との間にも強い相関関係があることが示されている。特に歯周病や歯周病菌の一種である *Porphyromonas gingivalis* と AD の関連性が注目されている。我々は、同菌を接種したマウスにおいて AD の病態が悪化することを確認した（NPJ Aging Mech Dis 3:15, 2017）。米国では、同菌の産生するシステインプロテアーゼ gingipain の阻害剤を AD に治療に応用する臨床試験も進行している。歯周病菌は、歯肉における出血や腸粘膜の透過性の亢進によって血管内に侵入した後、脳内に移行する可能性がある。そこで、このような病状に対する対策を講じることは、口腔からはじめる新しい認知症ケアの手段となり得るかもしれない。

本口演では、歯周病や歯周病関連細菌が認知症、特に AD の発症や病態形成にどのように関与するのか、AD 予防のターゲットになりえるのかについて、我々の研究成果やこれまでの報告をもとに総合的見地から解説する。

略 歴

1963 年、鹿児島県鹿児島市生まれ。

1989 年、鹿児島大学歯学部卒。

鹿児島大学大学院医師学総合研究科にて博士（歯学）の学位を取得。

米国ジョーンズ・ホプキンス大学医学部循環器内科研究員をへて、2005 年より国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・口腔疾患研究部部長。

2017 年に歯周病がアルツハイマー病の危険因子となる可能性についての論文を発表するなど、口腔感染症、特に歯周病の感染を制御するための研究を進めながら、健やかに老いるための口腔の健康増進法の開発・普及を精力的に行なっている。

現在、大垣女子短期大学歯科衛生学科教授ほか、北海道大学、北海道医療大学、東北大学、愛知学院大学、徳島大学、九州大学、鹿児島大学の非常勤教授を併任し、学部学生および大学院生の研究・教育にも従事している。

原著論文

Matsushita K et al. Nitric oxide regulates exocytosis by S-nitrosylation of N-ethylmaleimide-sensitive factor. Cell 115:139-150, 2003. 他

著 書

松下健二 人生が変わる歯の磨きかた（河出書房新社）他

教育講演Ⅲ

座長：杉本太造

(医療法人紫陽 クリニックサンセール清里 歯科)

口を開けない認知症高齢者への対応

愛知学院大学健康科学部 牧野日和先生



認知症高齢者は、早かれ遅かれ自力摂取が難しくなり、いずれ介助をしても食べられなくなります。臨床現場においては、その命を繋ぐため、開かない口を無理やりこじ開けて食べてもらう方法がありますが、このやり方では対象患者さんの尊厳を軽視しているように見えることも少なくありません。

近年、介護の求職者が減り、アジアなどの外国人にお願いする時代になりました。しかし今後もますます増加する認知症高齢者さん。このような背景の中、対象患者さんファーストの食支援を日常的に出来るのでしょうか？ これからますます超高齢社会率が高まる日本。いったい我々の未来はどうなってしまうのでしょうか。

この度の講演では、「牧野式食の構造化モデル」をご紹介します。「人はいつかは食べられなくなる」という自然の法則を尊重しつつ、対象患者さんファーストに努め、多職種連携のもと、最期まで可能性を探る方法です。

人の死は避けられません。従ってこの方法は万能ではありません。しかし、口を開けなくなった認知症高齢者の食べられる期間が延びたり、なによりも対象患者さんの家族がとても満足をされます。それは死後、何年たっても満足されるのです。「ここまでしてもらって、お母さん、幸せだったと思います」と言われます。

この講演が全国の認知症高齢者及び、いつかは認知症になるみなさんへの希望の光となることを期待して、発表者の経験をお話させていただきます。

略 歴

福井医療技術専門学校（現、福井医療短期大学）
愛知学院大学大学院歯学研究科博士課程

職 歴

社会福祉法人びわこ学園 第一びわこ学園 言語聴覚士
札幌医療科学専門学校 言語聴覚学科講師
学校法人同志舎 言語聴覚学科長
名古屋医専 言語聴覚学科長
愛知学院大学健康科学部（現在に至る）

【広 告】

株式会社モリタ
株式会社 熊谷組
教育産業株式会社
和田精密歯研株式会社

【展 示】

株式会社モリタ
株式会社 KURUMI
和田精密歯研株式会社
ティーアンドケー株式会社
日本メディカルテクノロジー株式会社

【協 賛】

医療法人さくら会
和田精密歯研株式会社



耳を澄ませば、
未来の音が
聴こえてくる。

熊谷組は、
土木・建築の
これからの
創造しています。

脱炭素化に向けた
中高層木造建築や、
災害時にも役立つ
無人化施工の
技術など、

環境と人に
優しい、未来の
まちづくりへと、
歩みはじめています。

未来を
信じて。

Believe.

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



Communications

映像・音響・ICTで、ビジネスを変え、社会を変える。

講義室マルチメディアシステム／遠隔講義システム／パソコン教室／語学演習システム(CALL)／電子黒板システム／タブレットPC／テレビ会議システム／会議・講義システム／同時通訳システム／大型マルチディスプレイ／映像配信システム／監視カメラシステム／ハイビジョン機器／デジタル映像機器／映像スクリーン／ホール音響システム／非営放送システム／施設内放送システム／プロオーディオ機器／印刷機・オフィスワーク機器／映像・デジタルコンテンツ／映像ソフト企画制作／映像音響機器レンタル



本社ビル

KSG 教育産業株式会社

本社：名古屋市中区丸の内三丁目18-28 〒460-0002 TEL(052)971-3011
営業所：東京・静岡・浜松・豊橋・岡崎・豊田・岐阜・三重
URL：<https://ksg.co.jp/>

StretchOral®

ほうれい線、シミ、シワへの
効果が期待できる!!



StretchOral®公認IP



特許第7064558号

歯も心も美しく
和田精密歯研株式会社

名古屋営業所
〒468-0066 名古屋市中区元八事1丁目114番地 TEL 052-861-0176 FAX 052-861-0177

